

主題：聖書の核心

メッセージ 11

マタイによる福音書における核心

聖書：マタイ 5:3, 8. 6:1-6, 16-18. 24:45-51

I. マタイによる福音書における核心は、天の王国の実際、外観、実現です：

- A. 天の王国の実際は、その天的で霊的な性質における天の王国の内側の内容です。それは第5章から第7章において、山の上で新しい王によって啓示されました。
- B. 天の王国の外観は、天の王国の名ばかりの外側の状態です。それは第13章において、海辺で王によって啓示されました。
- C. 天の王国の実現は、天の王国が実際に力の中で来ることです。それは第24章から第25章において、オリブ山で王によって明らかにされました。
- D. 天の王国の実際と外観の両方は、今日の召会にあります。天の王国の実際は正常な召会生活です（ローマ 14:17. マタイ 5:3, 8. 6:1-6, 16-18）。それはキリスト教として知られている天の王国の外観の中に存在します。
- E. 天の王国の実現は、来たるべき千年王国の天的な部分です。それは父の王国と呼ばれています（13:43）。千年王国の地的な部分は、メシア王国であり、それは人の子の王国と呼ばれています（41節）。それは復興したダビデの幕屋であり、ダビデの王国です（使徒 15:16）。
- F. 千年王国の天的部分、すなわち、力の中で現れる天の王国において、勝利を得る勝利者たちは、キリストと共に千年間王として支配します（啓 20:4, 6）。千年王国の地的な部分、すなわち、地上のメシア王国において、イスラエルの救われたレムナントは祭司となって、諸国民に神を礼拝することを教えます（ゼカリヤ 8:20-23）。
- G. わたしたちは今日、天の王国の実際の中（天の王国の外観のただ中）に生きる必要があります。それはわたしたちが天の王国の実現においてキリストをわたしたちの褒賞として享受することができるためです。

II. わたしたちは背教の召会の邪悪に注意する必要があります：

- A. マタイ第13章33節において主によって預言されたイゼベルという女は、パン種（邪悪で、異端の、異教の事柄を表徴する）をきめの細かい小麦粉（神と人の満足のための穀物のささげ物としてのキリスト）の中へと加えました。
- B. この女は啓示録第17章における大遊女です。彼女は忌むべきものと神聖なものを混合しました。アハブの異教の妻であるイゼベルは、背教の召会の予表です— 2:20. 列王上 16:31. 19:1-2. 21:23, 25-26. 列王下 9:7。
- C. わたしたちはバビロンの原則、背教の召会の原則に注意する必要があります。中途半端で、絶対的でないものは何であれ、バビロンと呼ばれます。わたしたちは神にわたしたちを照らしていただく必要があります。それはわたしたちが、彼の光の中で彼に対して絶対的でない、わたしたちの中にあるあらゆるものを裁くためです。

——啓 3:16-19. 参照、民 6:1-9。

1. バビロン（ヘブル語「バベル」）は、人が努力して人の能力によって地から天に何かを建て上げることです。それはれんがによって表徴されます——創 11:1-9. I コリント 3:12。
2. バビロンの原則は偽善です——啓 17:4, 6. マタイ 23:25-32. 6:1-6. 15:7-8. ヨハネ 5:44. 12:42-43。
3. バビロンの原則は、自分自身をやもめとは考えるのではなく、自分に栄光を帰し、ぜいたくに過ごすことです。ある意味で、キリストにある信者たちは現在の時代におけるやもめです。なぜなら、彼らの夫であるキリストがいないからです。わたしたちの最愛の方がこの世でここにいないので、わたしたちの心はここにはないのです——啓 18:7. 参照、I コリント 16:22. 啓 22:20. ルカ 12:34. I テモテ 6:6-10。
4. バビロンの原則は遊女の原則です。バビロンの目的は人が自分自身のために名を上げ、神の名を否むことです。キリストと結婚する純粋な処女である召会は、彼女の夫以外にどんな名も持つべきではありません——創 11:4. 啓 3:8. II コリント 11:2. I コリント 1:10。

Ⅲ. 「そこで、主人が家族の上に任命して、時に応じて彼らに食物を与える忠信で思慮深い奴隷は、だれであろうか？ 主人が来た時、そのように行なっているのを見られる奴隷は幸いである。まことに、わたしはあなたがたに言う。主人は彼に自分の全財産を管理させるようになる」——マタイ 24:45-47 :

- A. 信仰の中にある神のエコノミーは、彼の家庭のエコノミー、彼の家庭の行政です。それはご自身をキリストの中で彼の選びの民の中へと分与して、彼がご自身を表現する家を得るためです。その家は召会、キリストのからだです——I コリント 1:4. 3:15。
- B. 忠信で思慮深い奴隷は、神の家の中の執事であり、家庭の行政の執行者であって、キリストを食物として彼の信者たちの中へと分与します——I コリント 9:17. エペソ 3:2. I コリント 4:1. I ペテロ 4:10。
 1. 忠信さは、主に対して示されるものであり（I コリント 4:2; 7:25）、思慮深さは、信者たちに行使されるものです（参照、コロサイ 1:28. 歴代下 1:10. ピリピ 4:5）。
 2. 天の王国の実現において、主は忠信な奴隷たちにご自身のすべての所有物を管理させます。これは彼の奴隷に対する褒賞となります——マタイ 25:21, 23。
- C. 「彼らに食物を与える」は、神の言葉と命の供給としてのキリストを召会における信者たちに供給することを指しています。命を与える霊としてのキリストは、わたしたちの食物であり、命の言葉の中に具体化され、実際化されています—— 24:45. ヨハネ 6:57, 63, 68 :
 1. 主をわたしたちの霊的な食物として享受してわたしたちが他の人たちを養うことができるために、わたしたちはすべての祈りによって、また多くの再考をもって彼の言葉を受け取る必要があります——エペソ 6:17-18. 参照、レビ 11:2-3. エゼキエル 3:1-4。
 2. わたしたちは祈りと言の務めを堅く持ち続ける必要があります——使徒 6:4. 参照、ヘブル 7:25. 8:2。

3. わたしたちは預言して召会を建造する必要があります。すなわち、わたしたちの霊の活用を通して、聖霊の即時的で新鮮な靈感、油塗り、照らしの下で、この命についての生ける言葉をもって、わたしたちが見ることを語ります—— I コリント 14:4 後半、使徒 5:20、4:20、22:15。
4. わたしたちは自分自身を神の中へと祈り込み、命を与える霊をわたしたちの供給、霊的な食物として受け入れ、自分自身とわたしたちの顧みの下にある人たちを養います——ルカ 11:1-13。
5. わたしたちは命を与える「祈り求める者」、すなわち、命を与える霊の経路となる必要があります—— I ヨハネ 5:16。
6. わたしたちは「新鮮な油の子」、すなわち、諸召会に対する供給の経路となる必要があります——ゼカリヤ 4:6, 12-14、士 9:9、ピリピ 1:23-25、啓 3:18、マタイ 25:9。
7. わたしたちは主と一になって彼の人性において人をはぐくみ、彼の神性において人を養う必要があります——啓 1:13、エペソ 5:29。
8. わたしたちはキリストの天の務めと協力して、主の小羊と羊を養う必要があります——ヨハネ 21:15-17、I ペテロ 2:25、5:1-4、ヘブル 13:20。

IV. 「しかし、その邪悪な奴隷が心の中で、『わたしの主人は来るのが遅れる』と言い、奴隷仲間を打ちたたき始め、酔っ払いどもと食べたり飲んだりするなら、その奴隷の主人は、思いがけない日、知らない時に来て、彼を断ち切り、偽善者たちと同じ目に遭わせる。そこでは、泣き叫んだり歯がみしたりする」——マタイ 24:48-51 :

A. 心の中で「わたしの主人は来るのが遅れる」と言うことは、今の邪悪な世を愛して、主の出現を愛さないことです—— II テモテ 4:8, 10 :

1. わたしたちに今日がある限り、わたしたちは主を愛し、主の出現を慕い、主の来臨を待ち望み、主の来臨を警告、励まし、激励とすべきです—— 8 節、ピリピ 3:20、啓 22:12。
2. わたしたちは主の来臨のために目を覚まし、用意しておく必要があります——マタイ 25:13、24:44。
3. わたしたちはむさぼりに気をつける必要があります、自分のために宝を蓄えるのではなく、神に対して富む必要があります——ルカ 12:16-20、II コリント 6:10、エペソ 3:8。
4. わたしたちはロトの妻を思い出す必要があります、神が裁き徹底的に滅ぼそうとしている邪悪な世を愛したり尊んだりしてはいけません——ルカ 17:28-32。
5. わたしたちは主の来臨の日が畏のように突然わたしたちに襲いかかることがないように、目を覚まして祈り求めている必要があります—— 21:34-36、参照、マタイ 2:3。
6. 「主イエスよ、来たりませ！」——これは主を愛し、主の出現を慕い求めている人たちの切望、叫び、継続的な祈りであるべきです——啓 22:20、テトス 2:12-13。

B. わたしたちの奴隷仲間を打ちたたくことは、信者仲間を虐待することです——マタイ 18:1-7、参照、使徒 9:4 :

1. わたしたちは自分の信者仲間を裁いたり、罪定めしたりすべきではなく、むしろ彼らに対して親切にし、彼らを思いやり、神がキリストの中でわたしたちを赦し

- たように彼らを赦すべきです——ルカ 6:37. エペソ 4:31-32。
2. わたしたちは自分の兄弟たちをののしったり、批判したりすべきではなく、むしろ自分よりすぐれていると思うべきです—— I コリント 6:10. ピリピ 2:2-3, 29。
 3. わたしたちは自分の信者仲間に権威を振るうべきではなく、むしろしもべとして、奴隷としてさえ彼らに仕えて、命を与える霊である復活したキリストをもって彼らを養うべきです—— I ペテロ 5:3. マタイ 20:25-28. 参照、民 17:8。
- C. 酔っぱらいどもと一緒に食べ飲みすることは、この世の人々と付き合うことであり、この世の人はこの世のもので酔っています：
1. 信者たちの神聖な性質と聖なる立場のゆえに、彼らは未信者と不釣り合いなくびきを負うべきではありません。これは結婚や仕事に適用するだけでなく、信者たちと未信者たちの間の親密な関係にも適用すべきです—— II コリント 6:14. I コリント 15:33. 参照、箴 13:20。
 2. わたしたちは若い時の欲から逃れ、純粋な心で主を呼び求める人たちと共に、すべてを含むキリストを追い求める必要があります—— II テモテ 2:22。
- D. 忠信で思慮深い奴隷は褒賞を受けて、王国の実現において権威をもって支配します。そこでは、邪悪な奴隷はキリストの王国における彼の栄光的な臨在から断ち切られます——マタイ 24:47, 51：
1. 王国の実現から断ち切られるとは、外側の暗やみに放り出されることであり、そこには泣き叫びと歯がみがあります：
 - a. 外側の暗やみとは、王国の実現の中の輝く栄光の外の暗やみのことですから—— 16:28. 25:30。
 - b. 泣き叫ぶことは後悔を示し、歯がみすることは自責を示します。
 2. 千年王国においてキリストと共に諸国民を王として支配することは、彼の忠信で思慮深い奴隷たちに対する褒賞です——啓 2:26. ルカ 19:17-19。